

コード No. 18201

Anti-Endothelin-1 Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 50 µg

はじめに : エンドセリン(ET)は当初、血管内皮細胞由来の全く新しい血管収縮ペプチドとして同定されました。ETには、異なる遺伝子によってコードされた21アミノ酸から構成される薬理活性の異なる3つのアイソフォーム、ET-1, ET-2, ET-3が存在し、また血中ではその前駆体の Big ET-1, Big ET-2, Big ET-3を含めたET関連ペプチドが存在します。このETファミリーは血管内皮細胞に限局せず広範な組織で発現しており、一過性の血管拡張作用と、それに引き続く持続的な血管収縮作用を有します。エンドセリンの受容体は、ETAとETBの2種類が存在しこれらの組織に広く分布し、ETAは血管収縮作用、ETBは血管拡張作用に関与していると考えられています。このようにETが多彩な生理活性を示すことからETファミリーがパラクリンあるいはオートクリンとして局所ホルモンの機能を果たしていると考えられています。

免疫抗原 : Endothelin-1の部分合成ペプチド (Bovine, Canine, Human, Mouse, Porcine, Ratの共通部分)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製、ET-3吸収済

包装形態 : 1% BSA, 0.05% NaN₃含有PBS 1.0 mLに溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は50 µg/mLとなります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色 3~5 µg/mL (ホルマリン固定、パラフィン切片)
使用方法

特異性 :

Endothelin-1	100.0 %
Endothelin-2	1.0 %
Endothelin-3	0.4 %
Big Endothelin-1	100.0 %
Big Endothelin-2	0.2 %
Big Endothelin-3	0.4 %
VIC	0.2%

参考文献 :

1. Nakamura S. *et al.* Colocalization of immunoreactive endothelin-1 and neurohypophysial hormones in the axons of the neural lobe of the rat pituitary. *Endocrinology*. 1993; 132 (2), 530-533
2. Yanagisawa H., Nodera M., Kurihara N., and Wada O. Altered expression of endothelin-1 and endothelial nitric oxide synthase in the juxtaglomerular apparatus of rats with HgCl₂-induced acute renal failure. *Toxicology Letters* 98: 181-188 (1998)